

名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積) 延 面 積	死 傷 者
白樺湖ホテル  長野県茅野市 北山本堂3419～1	ホテル  (5)イ	昭和43年9月14日	防火造一部 耐火 %	④・半・部・小  1,384 m <sup>2</sup>  (76%)	死者 0名 傷者 0名 ( )
		出火21時50分ころ 覚知22時02分 覚知別 報知電話 鎮火24時00分	建 m <sup>2</sup> 延 1,813 m <sup>2</sup>		

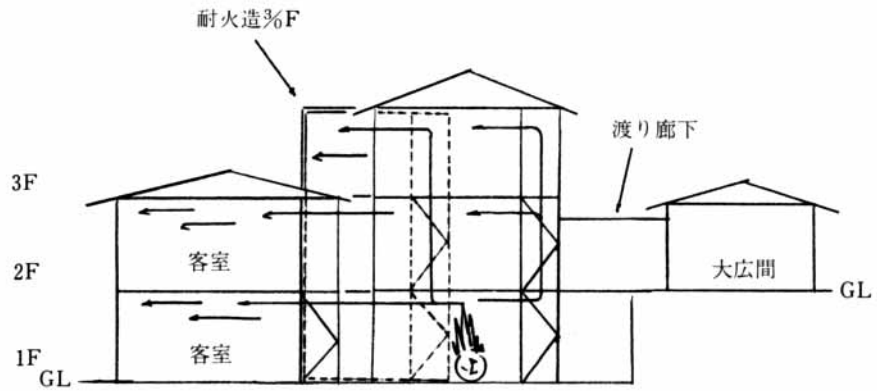
I 火災概要							
① 概 要	信州高原白樺湖畔にあるホテルで、夜半ボイラー室から出火し全焼した火災である。幸いにも、死傷者を出さずにすみ大事には至らなかったが従業員の初期対応のまずさ等によりホテル側の防火意識の低さを露呈した事例である。消防力が不足しがちな山間地の観光地では特に防火管理には配慮しなければならないといえる。						
② 階 別 状 況	階	床面積 m <sup>2</sup>	焼損床面積 m <sup>2</sup>	用途(売場)	在館者	死者	避難設備等 消防用設備等
	3	} 1,813	} 1,813	宿泊室	} 39		屋内階段 4箇所 避難梯子 2箇所  ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ベル
	2			宿泊室			
	①			食堂従業員室 広間宿泊室			
	合計	1,813	1,813		39	0	
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・(非居室), 在・(不在)) 1階ボイラー室から出火 ボイラー室が板壁で区画されていた。長期間にわたり油が漏れていたままであったのではないかと推定される。					④ 出 火 原 因	湯沸し用温水ボイラー(円筒型)用燃料である灯油が漏油してバーナーの火が逆火し引火したものと推定されている。

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) ボイラー室</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) ボイラー室板壁</div> <div style="text-align: center;">(他室への拡大) ○防火区画の開放 ○間仕切壁の未施工 ○内装等</div> <div style="text-align: center;">(地階への拡大) 階 段</div> </div>			
	<p>ボイラー用燃料である灯油の漏油から出火し、ボイラー室の区画が板壁であったため拡大した。延焼拡大した火災は主要な間仕切壁の天井裏が施工されていなかったり防火区画が耐火造部分と他の部分を区画する防火シャッターだけであったうえ、そのシャッターが作動されなかったこと等により一挙に全館へ延焼していったものと推定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 延焼拡大した主な理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボイラー室が不燃区画されていなかった。</li> <li>○防火シャッターを閉鎖しなかった。</li> </ul> </li> <li>○ 煙の伝播経路 <ul style="list-style-type: none"> <li>火災拡大とともに廊下・階段伝いに伝播していったものと推定される。</li> </ul> </li> </ul>			
<b>II 火災建物概要</b>				
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 改築以来42年まで5回増築している。 (構築) 昭和28年 月 日 (改築) 昭和32年 月 日			
管 理 状 況	<b>② 豎 穴 の 状 況</b>		<b>③ 防 火 管 理 状 況</b>	
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 階段室区画がシャッターであり、このシャッターが開放されたままであった。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○防火管理者は選任し届出されていた。</li> <li>○消防計画未作成</li> <li>○訓練等未実施</li> <li>○消防用設備等の自主点検未実施</li> </ul>	
管 理 状 況	<b>④ 防 火 区 画 等</b>		<b>⑤ 消 防 用 設 備 等</b>	
	耐火造3階建ての1階部分と他の部分との連絡通路に防火シャッターが1ヶ所あり防火区画されていた。 (出火時作動されなかった。)		自動火災報知設備が設置されていた外一部未警戒箇所があった。	

III 火災後の行動						
① 発 見 状 況	<p>○発見者 (臨時に手伝いに来ていた男)</p> <p>○発見の動機 (パチパチという音)</p> <p>○発見後の行動 (社長に火事を知らせる)</p> <hr/> <p>臨時に手伝いに来ていた男がボイラー室の近くを通りかかったところ、パチパチという音を聞き、さらにボイラー室の板壁の隙間からボイラー室内が赤くなっているのを発見し、フロントの社長に火災を知らせた。</p>					
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input type="checkbox"/> ( ) 不祥出火後約( 12 )分</p> <p>しない <input checked="" type="checkbox"/> ホテル関係者以外の者、</p> <hr/> <p>消防機関に対する通報は、ホテル関係者以外の者からされている。しかし、この通報は一度地元北山電話に入り電話局員によって市街電話で通報されている。この時間は22時02分であった。</p>					
③ 初 期 消 火 状 況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">消 火 し た</td> <td style="width: 35%;">           成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/>            ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/>            ○消火困難性 <input type="checkbox"/>            ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 50%; vertical-align: top;">           (理由又は状況)            発見者と社長で泡消火器(10ℓ型)4本を使用して初期消火を行ったが効果はなかった。         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">消 火 し な い</td> <td>           ○消火時期 <input type="checkbox"/>            ○消火困難性 <input type="checkbox"/>            ○消火方法 <input type="checkbox"/>            ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 発見者と社長で泡消火器(10ℓ型)4本を使用して初期消火を行ったが効果はなかった。	消 火 し な い	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 発見者と社長で泡消火器(10ℓ型)4本を使用して初期消火を行ったが効果はなかった。				
消 火 し な い	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>○山岳観光地であったため、消防署隊および市の消防団が到着するまで40分余も経過しており、地元の消防団の防ぎょだけでは抑えきれなかったものと思われる。</p> <p>○消防力が弱小であった。  「本署消防長以下17名(当務員7名)ポンプ車1台、救急車1台、指揮者1台、運搬車1台」</p>					

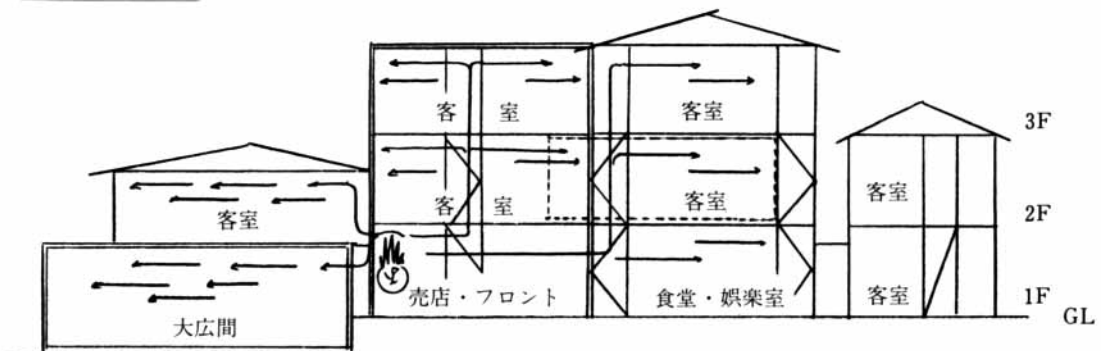
	避難方法	避難上支障事項														
⑤ 避難状況	○階段を利用 <input type="checkbox"/> ( 人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> ( 人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> ( 人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> ( 人) ○救助 <input type="checkbox"/> ( 人) ○その他( ) <input type="checkbox"/> ( 人)	○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良,機能不良,未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>														
⑥ 死者の状況	<table border="1"> <tr> <td>健康人</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>(泥酔者)</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>要保護者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>乳幼児</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>身体不自由者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>病人</td> <td>名</td> </tr> </table> <p>なし</p>	健康人	名	(泥酔者)	名	要保護者	名	乳幼児	名	高齢者	名	身体不自由者	名	病人	名	避難上支障となった事項 ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良,機能不良,未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
健康人	名															
(泥酔者)	名															
要保護者	名															
乳幼児	名															
高齢者	名															
身体不自由者	名															
病人	名															
<b>IV 問題点・教訓等</b>																
<ol style="list-style-type: none"> <li>数回にわたる建物の増改築があったにもかかわらず防火上の配慮が欠けていた。</li> <li>主要な間仕切壁の天井裏区画が施行されていなかった。</li> <li>立入検査において不備欠陥を指摘されながら是正していなかった。            (イ) 屋内消火栓を設置すること。 (ロ) 自動火災報知設備の未警戒部分を改修すること。            (ハ) 耐火造の2・3階に避難器具を設置すること。 (ニ) ボイラー室を不燃料に改修すること等</li> <li>防火シャッターが閉鎖できず耐火造3階建に延焼させた。</li> <li>火気使用施設の取扱い管理が不備であった。</li> <li>消防計画がなく、訓練等も行われておらず、全般的に従業員の防火意識が低かった。</li> </ol>																

側面から見た断面



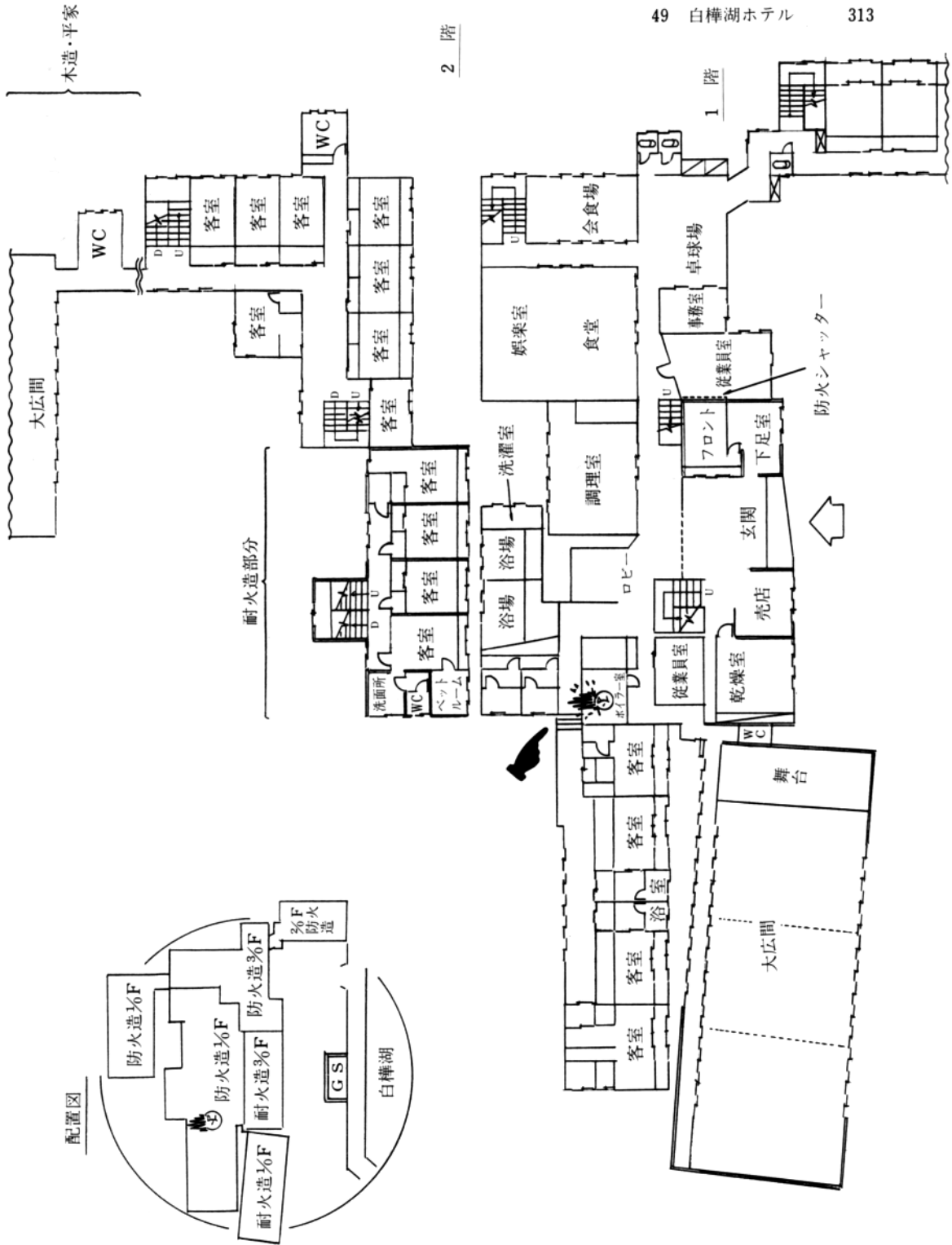
④ 点線部分は耐火造の位置を示す。

前面から見た断面



④ 点線部分は大広間の位置を示す。

2 階



配置図

